

## 退勤時間調査結果・KKR過労自死問題を記者発表



3月20日、日本医労連は「2014年秋・全国一斉退勤時間調査」結果とKKR札幌医療センターの過労自死問題について記者発表を行いました。

退勤時間調査の結果では、不払い残業代平均額が少なく見積もっても1人あたり月額6万円超。1000床規模の大規模病院では看護師だけで毎月6千万を超える不払い残業代が発生していること。7割以上の看護師が始業前に時間外労働を行っている実態があり、その内8割が残業代を請求できていない実態が明らかになりました。請求できない理由としては、約3割が残業代を請求出来ない雰囲気があると答え、請求方法が分からない(1.3%)、請求できると思わなかった(9.0%)も合わせると1割に達しています。

KKRの過労自死問題では、国共病組の丸山書記長が23歳の新人看護師が勤めはじめてわずか8か月で過労自死を選択してしまった痛ましい事件についてブックレットを開きながら訴えました。

残業が入職した翌月には90時間を超えていたこと。そのような勤務実態であったにも関わらず、労働局は「時間外労働は精神障害の原因ではない」として労災不支給としました。ブックレットの中にも11月25日に、「時間外がつかないのは本当につらい」と訴えている。時間外がつかないという事は労働として認めてもらえない感じがしてしまう。など涙ながらに訴えました。



記者発表には、10社以上のマスコミが集まり「これは本当にひどい事件だと思っていたんだ。」と熱心に丸山書記長に取材をする記者もいました。